

The 23rd International Symposium on Advances in Abrasive Technology 開催報告

東京電機大学 工学部先端機械工学科
教授 森田 晋也

(2021年度 国際会議等準備及び開催助成 AF-2021039-V1)

キーワード：砥粒加工，精密加工，工作機械

1. 開催概要

The 23rd International Symposium on Advances in Abrasive Technology (ISAAT2021) は、2021年11月30日から12月3日の4日間、北海道のニセコ町にあるヒルトンニセコビレッジ(図1)を会場として開催しました。会場となるホテルは、新千歳空港からバスで2時間半程度の場所に位置し、雄大な羊蹄山を望み、冬には世界有数のパウダースノーを体験できるスキーリゾート地です。

今回のシンポジウムは、Covid-19の感染予防対策として、初めてのオンサイトとオンラインの双方によるハイブリット方式で開催されました。また、中国からの参加者に配慮し、会議のプラットフォームとして、VooV Meeting を利用しての開催となりました。そのため、参加登録者数 117名の内、日本国内からのオンサイト参加者 46名(図2)、オンライン参加者 71名となりました。オンライン参加者の内訳は、日本 32名、海外 39名(中国 30名、台湾 4名、オーストラリア 3名、カナダ 1名、フランス 1名)になります。また、講演会を開催するにあたりオンサイト参加者には、事前に抗原検査キットを配布するなど講演会での感染予防対策において万全の準備を整えて開催に臨みました。

2. 講演会

講演会は、会場ホテルの北海道ルームで行いました。その部屋は、最大 900名まで収容可能なメインホール(図3)で、オーラルプレゼンテーションでは、その部屋を Room A~D の4個所に分け、各 Room でワイヤレスイヤホンを使用して発表を聴講する方式を導入しました。そのため、音響スタッフを手配して事前に VooV Meeting の接続テストも含めて入念な確認作業を行いながら会場準備をしました。

講演会では、オープニングセレモニーで ISAAT2021 実行委員長の青山先生による開会の挨拶や砥粒加工学会池野会長の挨拶(図4)などがあり、その後にプレナリートークに移りました。プレナリートークでは、VooV Meeting でのスライド共有が上手くいかないトラブルがありました。順番を変更するなど現地スタッフが機敏に対応することでスケジュール通りに進行することが出来ました。オーラルプレゼンテーションでは、最初はオンサイトとオンラインでの質疑・応答に戸惑う参加者が多くい

ましたが、最後には活発な質疑・応答が各 Room で行われました。また、ポスターセッションは、VooV Meeting のブレイクアウトルーム機能を利用して行いました。多くの発表者がショートプレゼンテーション動画を制作して発表していました。

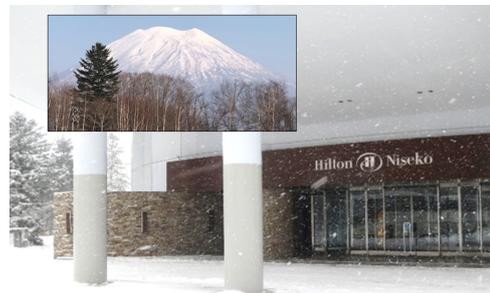


図1 ヒルトンニセコビレッジと羊蹄山



図2 集合写真(Onsite)



図3 講演会会場と講演会の様子



図 4 実行委員長と JSAT 会長 (Online) の挨拶



図 6 表彰式の様子



図 5 懇親会の様子



図 7 テクニカルツアー (研究紹介の様子)

ISAAT2021 では、プレナリートーク 4 件、講演発表はオーラル 71 件、ポスター 12 件の全 83 件になりました。また、オーラル 71 件の内、オンサイト 24 件、オンライン 47 件の発表形式で行われました¹⁾。

3. 懇親会・表彰式・テクニカルツアー

すべての講演発表を終えた夕方から会場ホテルのアンヌプリにてバンケットが催されました。実行委員長の青山先生と、芝浦機械株式会社 田中様より挨拶がなされました (図 5)。その後、砥粒加工学会の会長も務められた田牧先生による居合演武が行われました。演武前には、日本刀の構造と使い方のお話があり、首、肩口、脇下や小手など切る部位が定められているなど大変興味深い内容でした。また、演武では日本刀で空気を切る音が会場中に届き、会場内が張り詰めた空気の中で緊張感に包まれていました。

また、懇親会内で ISAAT2021 に投稿された論文の中から特に優秀な論文が“Excellent Paper Award”として 3 件発表され、表彰式も行われました (図 6)。

最終日は、テクニカルツアーとして北海道大学のデジタル幾何処理工学研究室を訪問し、金井教授から研究紹介 (図 7) ならびに研究室見学をさせていただきました。研究室見学では、ヘッドマウントディスプレイを装着してデモンストレーションを体験する機会を設けていただき (図 8)、これから 3 次元計測システムから得られるデジタルデータを基に展開する新しい世界の一端を垣間見られました。



図 8 テクニカルツアー (研究室見学の様子)

4. おわりに

初めてのハイブリッド方式での開催となった ISAAT2021 は皆様のご協力により、無事に終了いたしました。次回の ISAAT2022 は、中国の広東州広州市にて現地+オンラインのハイブリッド方式で開催されます。

謝 辞

ISAAT2021 を開催するにあたりご支援を賜りました公益財団法人天田財団に謝意を表します。

参考文献

- 1) H. Aoyama et al. (Eds.), Proceedings of the 23rd International Symposium on Advances in Abrasive Technology (2021), 1-438.